

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	文化財保護事業	会計名称	一般会計		担当課	社会教育課	
		予算科目	10 款 5 項 1 目	事業番号	4630	所属長名	森田誠司
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	北岡康平	
法令根拠等	伊予市文化財保護条例				実施期間	【開始】	平成 17 年度
総合計画での位置付け	生涯教育都市の創造 個性豊かな文化の振興					【終了】	平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	個性豊かな文化の振興						
事業の対象	市民			事業の目的	伊予市の財産である貴重な文化財を系統的に整理分析し、保存活用していく。		
事業の内容 (整備内容)	文化財を調査・研究し、保存活用を図る。また、文化財の普及啓発及び利活用を進める。			昨年度の課題に対する具体的な改善策	新施設への移動に向けた収蔵物の整理及び、外部の関係組織との連携強化における活用方法の検討。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	28 年度実績	29 年度予定	9月末の実績	29 年度実績
直接事業費	4,046	5,506	0	0	0	4,282	文化財保護事業	件	4	4	2	5
財源内訳						0						
国庫支出金		0	0	0	0	0						
県支出金		0	0	0	0	0						
地方債		0	0	0	0	0	スタディバスツアー	人	19	20	0	28
その他	19	50	0	0	0	1						
一般財源	4,027	5,456	0	0	0	4,281						
職員の人工(にんく)数	0.54	0.54				0.54	民具の利活用	回	6	5	0	4
1人工当たりの人件費単価	8,086	8,017				8,017						
※ 直接事業費+人件費	8,412	9,835				8,611						
主な実施主体	臨時職員を2名含む		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		賃金							
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	34 年度	5年間の合計		
					6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	31,000		
成果指標	指標	文化財関連学習会・講演会(スタディ・バスツアー、こども体験学習等)への参加者数				単位	区分年度	28 年度	29 年度	30 年度	目標 毎 年度	
						人数	目標	200	200	200	200	
	指標設定の考え方	市民に対して文化財保護の啓発普及が適切に行われたか。					実績	136	148			
指標で表せない効果	参加者の意識の変化											

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		文化財専門員の不在及び、中山S I Cに係る業務量増加のため、職員への負担、負荷が大きいのしかかった。								
事業 業務 事業 の 評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業 成果 ・ 工夫 した 点 課題 の 苦 労 した 点 課題	文化財専門員が不在の中で可能な範囲での対応は行ってきたが、専門分野における文化財行政の取組は限界があった。しかしながら、外部機関における各専門家の支援を得ながら事業を行い、特に戦争体験をテーマとした講演会は多くの観客動員数を得た。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	3					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	3					
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。	2	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。			3			
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。						3
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 施策推進につなげている。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
		コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。			3				
		市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。				5			
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D			A	事業 の 方 向 性 所 属 長 の 課 題 認識
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	3					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	3					
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。			3				
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。				4			
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 施策推進につなげている。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D						
	コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。			3					
	市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。				3				

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 総合計画の基本施策を推進するに当たり、特に重要な事業と判断したため。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	<p>答申の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい施設の展示に期待している。 ・すごく大事な事業だと思う。費用をかけてでも整理しないと、伊予市の歴史が雲散霧消になってはいけない。 ・人的に恵まれた時期だからこそ、整理すべき気持ちは分かる。財政が逼迫している中、ウエートの置き方が重要である。 ・地域の伝承やまちの謂われを冊子にしている公民館もある。大変だと思うけれど、そういう取組もしてほしい。 ・地域には埋もれた文化財がある。歴史があって今があるので、伊予市の古い何かを残すということで考えてほしい。 ・全方位に目を配っていただき、伊予市の文化を次世代に残す格好を考えていただきたい。 ・テレビで地形と地域の文化という観点でやっている番組がある。市民と一緒に歩いて発見できると面白い。 ・長いスパンで地道にやっていただくしかないと思う。物事に優先順位があるのは当然なので、何を基準にというのは難しいけれど、工夫しながら進めていただきたい。 ・お金をかけた割に成果が見えにくい事業である。新たな切り口を考えると前向きで楽しくていいのではないかと思う。
------------	------	---

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性		コメント欄 非常に貴重な文化財の保存活用である。地道にやっていくしかない。
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	右記の点を見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を行う。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を行う。	